千葉の園芸

発行所　千葉市中央区市場町１－１
　　公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先　０４３（２２３）３００５
発行日　毎月１日
令和５年５月号

全農千葉県本部園芸事業の取組

全国農業協同組合連合会千葉県本部
園芸部 部長　　増 田　大

全農千葉県本部は、国内農業における情勢認識を踏まえ、「農業者の所得増大・農業生産の拡大・地域の活性化」に向けた自己改革を進めます。
また、今次３か年計画で定めた重点実施策や実行具体策の前年度の課題をふまえ、以下の具体的な取組を実践します。

Ⅰ　基本方針

産地・ＪＡ・千葉県・(公社)千葉県園芸協会と連携し、パートナー市場や実需者と結びついた販路の確保、担い手の育成を進め、生産者の経営安定化及び生産拡大を図り、「オール千葉」体制にて実行具体策に取り組みます。

Ⅱ　令和５年度に向けた取組

（１）　生産対策：取扱重量の拡大を図り、１万ｔの取扱拡大を目指します。
（２）　市場販売：大型ロットでの販売に加え契約販売や直送・別注販売の拡大により、供給拡大を進めます。
（３）　直販事業:県内パートナー企業との連携により供給体制を整備し、生協・量販店や中食・外食向け食品加工業者等の取引先に対する販売強化をします。また、ＪＡタウンの取扱拡大にも取り組みます。

Ⅲ　実行具体策

１．生産対策

（１）　関係機関と連携し、ＪＡの農業振興計画に基づいた生産拡大と系統未利用・低利用者への系統出荷を誘導します。
（２）　生産が減少傾向にある重点品目(長ねぎ・さつまいも・にんじん・トマト)を中心に生産拡大に取り組みます。
（３）　水田基盤整備事業により整備されたほ場や稲作経営体への園芸品目の生産販売提案による新たな産地育成に取り組みます。
（４）　系統未利用・低利用者への推進強化により、花きや果樹等の地域特産品の生産量維持・拡大に取り組みます。
（５）　労力軽減と出荷ロットの確保を目的とした出荷規格の簡素化・統一化を図ります。
（６）　ＧＡＰ等の取組推進による安全・安心な農産物の生産・販売に取り組みます。
（７）　安房・君津、山武・印旛、東葛３地区のＪＡ協議会により課題を共有し、地域の活性化を図ります。

２．市場販売の拡大

（１）　パートナー市場８社との連携強化による、千葉県青果物の販売促進を強化します。
（２）　重点取引先への取扱拡大によるパートナー市場の取扱拡大を進めます。
（３）　売り場の確保・市場契約や直送・別注取引の予約相対の拡大を進めます。
（４）　コロナ禍に対応した販売促進・消費宣伝の強化、新しいエリアでの販売促進に取り組みます。
（５）　食品企業との商品コラボによる相乗効果を狙った消費宣伝を強化します。

３．直販事業の拡大

（１）　オンラインを活用した産地交流の実施、産地と連携した魅力ある商品提案による生協向けの販売を強化します。また、他県エリア各店舗、他生協など新たな販路拡大を進めます。
（２）　新規・既存取引先に対する販売強化のため、ＪＡ域を越えた青果物の集荷体制と安定供給による取引拡大を図ります。
（３）　パートナー企業と事業連携を図り、パッケージ・集配送機能強化による量販店等への販売拡大に取り組みます。
（４）　新たな商品づくり、ライブコマースを含めたネット広告の見直しによるＪＡタウンの事業拡大に取り組みます。
（５）　生産基盤の維持・拡大を目的に、ＪＡ、行政、ジェトロ千葉等と連携し、シンガポール・マレーシア等の東南アジア諸国を中心に、国別・品目別の販売戦略を作成し、輸出の販売強化に取り組みます。

行政の掲示板

生産振興課が所管する園芸関係の主な補助事業について

千葉県農林水産部生産振興課
園芸振興室　　主査　石井 一成

県では、千葉県農林水産業振興計画において掲げた「園芸生産の拡大に向けた力強い産地づくり」に向け、農業者の皆様に活用いただける各種補助事業を実施しています。令和５年度からスタートする新規事業を含め、補助事業の一部を紹介しますので、是非活用を御検討ください。

１「輝け！ちばの園芸」次世代産地整備支援事業

（１）生産力強化支援型　300,000 千円

［事業主体］　農業協同組合、生産者組織等（３戸以上）又は認定農業者等
［補 助 率］　1/3以内（農協、生産者組織等）
1/4以内（認定農業者等）
［補助対象］　パイプハウス、低コスト耐候性ハウス、予冷庫、省力化機械、共同利用機械等

（２）園芸施設リフォーム支援型　30,000 千円

［事業主体］　認定農業者、認定新規就農者等
［補 助 率］　1/4以内
［補助対象］　園芸施設（ガラス温室、鉄骨ハウス等）の鋼材等の改修等

（３）スマート農業推進型　20,000千円

［事業主体］　認定農業者、認定新規就農者等
［補 助 率］　1/3以内
［補助対象］　環境制御関連装置（環境モニタリング装置、炭酸ガス施用装置等）、ドローン等

２ さつまいも生産拡大緊急プロジェクト事業【新規】

［事業主体］　認定農業者、認定新規就農者、農業協同組合等
［補 助 率］　1/3以内

（１）苗の生産・供給体制の整備　11,000 千円

［補助対象］　さつまいも育苗用パイプハウス、電熱線等の保温資材

（２）貯蔵施設の整備　88,000 千円

［補助対象］　さつまいも貯蔵庫、貯蔵用コンテナ※
※ ただし、貯蔵用コンテナは上限1,000千円で、貯蔵庫の整備と一体的に整備する場合に限る。

３ 気象災害に強い果樹産地支援事業　100,000 千円

［事業主体］　認定農業者、認定新規就農者等
［補 助 率］　1/3以内
［補助対象］・果樹棚と一体的な多目的防災網の整備
・果樹棚と一体的な多目的防災網の再整備

４ 施設園芸省エネ転換推進事業　150,000 千円

［事業主体］　認定農業者、認定新規就農者
［補 助 率］　1/2以内
［補助対象］　ヒートポンプ、循環扇、内張カーテン等保温設備・資材

募集時期

事業１（１）（２）、３の募集は終了しました。
事業４は本年５月末を期限として公募中です。
１（３）、２の事業については、生産振興課園芸振興室までお問合せください。
なお、事業４以外は市町村の予算措置が必要であり、市町村を経由して各農業事務所企画振興課へ申請していただきます。

問合せ先

最寄りの各農業事務所企画振興課、または
農林水産部生産振興課園芸振興室（043-223-2882）

行政の掲示板

施設園芸セーフティネット構築事業の加入募集

千葉県農林水産部生産振興課園芸振興室
（執筆者：（現）千葉県農業者総合支援センター　副主査　峰島恒）
（千葉県農林水産部担い手支援課）

施設園芸に係る燃料の価格が高騰している中、国の施設園芸セーフティネット構築事業について、現在令和５事業年度の加入を募集しています。

燃料価格が基準価格を超えた場合に補てん金が交付され、価格高騰で受ける影響を抑えることができますので、是非加入しましょう。

１　事業加入の要件

Ａ重油や灯油、ＬＰガス、ＬＮＧといった燃料を加温に使っている施設園芸農家３戸以上あるいは農業従事者５名以上で構成する農業者団体等（例・農事組合法人、ＪＡの出荷部会、任意組合等）が対象です。

申し込みに当たっては、燃料使用量を３か年で１５％削減する省エネ計画を策定する必要があります。生産管理チェックシートに基づき、ハウスの温度管理の改善や暖房機の点検清掃を行うほか、保温資材やヒートポンプ等の省エネ型加温機を活用することで、燃料使用量の削減を推進しています。

また、事前にセーフティネットの対象となる燃料購入数量と生産者分の積立金を設定します。積立金は４段階のコースがあり、資金が少なくても加入できる上限価格の低いコースから、高騰に備えて上限価格の高いコースまで選ぶことができます。申込書類を提出後、積立金を千葉県農業再生協議会に納入します。なお、使われなかった積立金は全額返還されます。

２　補てん金の交付

補てん金が交付される基準価格は、Ａ重油81.6円/L、灯油86.5円/L、ＬＰガス106.9円/kg、ＬＮＧ57.0円/㎥です。各燃料の価格がこの基準価格を上回った場合、生産者の積立金：国の補助金＝１：１で造成した補てん金が交付されます。すなわち、生産者の負担は基準価格と燃料価格の差額の２分の１で、残り２分の１は国の補助金です。

補てん金は月ごとに支払われ、発動した月の２～３か月後に交付されます。なお、積立金を使い切った時点で、当該事業年度の補てんは終了となります。

３　申込先

千葉県農林水産部生産振興課のホームページ（後述）で「千葉県施設園芸等燃料価格高騰対策業務方法書」の本文及び様式を入手できます。業務方法書の各様式に必要事項を記載し、必要な資料を添付して最寄りの農業事務所企画振興課まで提出してください。

（https://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/kinyuu/seisanhanbai.html#nenyu）

特に、初めて本事業に申し込みをする場合は、申込期限に関わらずお早めに最寄りの農業事務所企画振興課へ相談してください。

農業事務所への申込期限
令和５年７月中旬の予定です。

花植木ニュース

オリーブの好適な挿し木環境の解明

千葉県農林総合研究センター
花植木研究室　　研究員　　髙橋　玄

挿し木の発根が難しいとされるオリーブの安定的な繁殖を目的に、好適な挿し木環境を明らかにしました。
挿し木時期、光量、潅水方法などを適切に選択することで、発根率を向上させることが可能です。

1　はじめに

オリーブは近年、観賞用の庭植木、観葉植物として人気が高く、生産拡大が期待されています。繁殖は挿し木で行われていますが、発根中は環境変化に敏感で、条件が悪いと簡単に枯死してしまうなど、繁殖が難しい樹種です。

そこで、オリーブの挿し木にとって好適な条件を明らかにするため、挿し木の適期や光条件、潅水条件について検討しました。

2　挿し木の適期

挿し木する時期により、母樹の栄養条件や挿し木中の温湿度が異なります。挿し穂が得やすい6月以降の時期で比較したところ、9月の発根率が約 80%と最も高く、この時期が挿し木の適期であることがわかりました（図表省略）。

3　光条件

挿し穂は、根が無く、葉も少ない状態ですが、光合成は行われています。光合成で作られた糖類は根の発育に使われるため、挿し木中も一定の光を当てることが重要です。人工気象室で光量を変えて調査したところ、光条件０～1,700lux と比べ、12,000lux の発根率が61%と高くなりました(表1)。この光量は9月の自然光下でならおおむね 80%の遮光率となり、遮光率 70-80%の遮光シートの下で挿し木をするのが適しています。

表１　光条件別の挿し木の発根状況

光条件	発根率（%）	根数	最大根長（㎜）
12000lux	61.1	2.7	74.6
1700lux	52.8	3.0	55.3
0.3lux	0.0	0.0	0.0

挿し木床は温度が上がりすぎると、挿し穂が水分を失いやすくなるため、90%以上の遮光をすることが多いですが、過度な遮光は発根率を低下させる恐れがあります。挿し木床の温度は30℃を超えないように、外部遮光や換気などで管理しましょう。

4　挿し木の潅水条件

挿し穂が枯死する原因の１つが雑菌等による被害です。雑菌は濡れている場所で発生しやすく、湿度の高い挿し木床では注意が必要です。上部から潅水すると、葉や芽が濡れ、その状態が続くと、そこから雑菌が繁殖し、挿し穂が枯死してしまいます。

そこで、底面給水トレイなど使い、挿し床の底面から給水させることで挿し穂の濡れを回避することができます。底面給水を行うと、発根率が高く、根数も多くなります（写真１）。

写真１　潅水方法別の挿し木の様子
（左：底面給水、右：上部潅水）

5　おわりに

オリーブの挿し木による繁殖は、これまで発根率が低く、不安定とされてきました。今回の試験により、オリーブは9月頃に、80%の遮光環境下で、底面給水により管理を行うと、発根を促すことができました（写真２）。これにより、今後の県内鉢物オリーブのさらなる生産拡大を期待します。

写真２　好適環境下の挿し木繁殖

その他

千葉県立農業大学校のスマート農業への取組

千葉県立農業大学校 農学科
教授(兼)科長　　板倉 里絵

千葉県立農業大学校では、農業の実践的な知識や技術、経営管理能力を養うために様々なカリキュラムを組んでいます。その中でも技術革新・情報化など時代の変化に対応して、スマート農業の実践に取り組んでいます。

本校ではカリキュラムの充実を進めており、順次、スマート農業の実習を取り入れています。農学科１年生を対象に様々な最新機械の説明・実演会をメーカーの協力のもと実施しています。参加した学生は最新機械の性能に関心を示し、実習等で使用してみたいとの声が聴かれます。

これに応えられるよう、国の農業教育高度化事業を活用し、令和３年度には環境制御ハウスと牛の行動監視システム、令和４年度には食味・収量センサー付コンバインを導入しました。その他、県単事業で除草ロボットやアシストスーツなども導入しました。

環境制御ハウスは軒高5.3m、窓やカーテン、暖房、炭酸ガスの発生機等の６種類を自動で作動させることができます。現在、学生の研究用にトマトやパプリカを栽培しており、学生は馴れないシステムに苦労しながら、スマートフォン等でハウス環境を制御し、植物の生育とデータに基づいた管理を行うなど、研究に有効活用されています。

環境制御ハウス内での作業風景

牛の行動監視システムでは、首に装着したセンサーによって、牛の様々な行動をモニタリングし、そのデータを自動的に解析し、発情や疾病の状況を特定することが可能となります。解析結果はスマートフォン等にリアルタイムで通知されるため、飼養管理の改善に役立ちます。学生は目視で確認していることと照らし合わせながら、実際の現場での活用を想定して、システムを使用しています。

除草ロボットは果樹園内にセンサーを設置し、その範囲内を自由に動き、下草の除草作業を行っています。スマートフォン等を使って、離れた場所からロボットの稼働状況の確認や刈り高や動作の指示ができます。ロボットが自在に園内を動けるよう、学生はロボットの稼働状況を見て、環境を整えています。

稼働中の除草ロボット

学生らはこれらの農業施設や機械を使いこんでいくうちに、その利点や欠点がわかり、欠点を工夫して補いながら、さらに効率的な活用方法を考え、実行しています。

食味・収量センサー付きコンバインやアシストスーツなどは今後本格的に使用していきますが、様々な試験で使用する計画をたてています。

スマート農機は次々と新しいものが開発されてきており、学校のほ場は面積が小さいなど導入が難しいものも多くありますが、当校では学生が卒業後、新しい技術や機械にスムースに対応できるよう、様々な機械や技術を導入し、実践力のある農業者の育成に努めていきます。

牛の首に装着したセンサー

千葉県立農業大学校 オープンキャンパス 1日体験入学の開催について

千葉県立農業大学校

農業大学校の授業や実習を見学･体験しませんか。キャンパスツアーでは、学生寮、農場、畜舎などの学校設備を御案内します。

オープンキャンパス 授業や実習の見学・キャンパスツアー	
第１回	６/１５（木）
第２回	７/２４（月）
第３回	８/　２（水）
第４回	８/　８（火）
第５回	８/２５（金）
第６回	２/２１（水）
第７回	３/　１（金）

※ 実施時間　10：20～13：15
　　13：15～15：15（3/1 のみ）
※ 申込締切　実施日の２週間前 13 時

１日体験入学 実習体験・キャンパスツアー	
第１回	６/　３（土）
第２回	８/１８（金）

※ 実施時間　10：30～15：00
※ 申込締切　実施日の 10 日前 13 時

申込方法：ホームページよりＱＲコードを読み取りお申込みください。
本校ＨＰ https://www.pref.chiba.lg.jp/noudai/
メール noudai01@mz.pref.chiba.lg.jp

問合せ先：千葉県立農業大学校 農学科
〒283-0001　東金市家之子１０５９
電話：０４７５－５２－５１２２

令和５年度肥料価格高騰対策のごあんない

千葉県農林水産部安全農業推進課

事業の概要

肥料の価格高騰による農業経営への影響緩和のため、化学肥料低減に向けた取組を実施する農業者の皆様を対象に、令和５年春用肥料（令和４年１１月～令和５年５月の価格が適用されたもの）について、肥料コスト上昇分の一部を支援します。

千葉県の場合は、化学肥料低減の取組を行った上で前年度から増加した肥料費について、その９割（国７割、県２割）を支援金として交付します。ただし、国７割分と県２割分は別事業のため、別々に申請していただきます。

支援金＝（当年の肥料費－当年の肥料費÷高騰率（1.4）÷使用量低減率(0.9)）×0.9
（前年の肥料費相当）

申請方法

農協、肥料販売店など、それぞれの店舗に購入した肥料分を申込みください。

取組実施者（農協、肥料販売店等）の申請期限は令和５年７月２０日（木）に農業事務所着となります。

取組実施者は５名以上の農業者の申請をとりまとめて農業事務所に申請するので、店舗によって申込期限等が異なります。申込予定の各店舗にお問合せください。

申込みには、①化学肥料低減計画書、②購入日や種類、数量、購入費がわかる書類（領収書・請求書など）が必要です。

※後日、化学肥料低減の取組の書類や現地の確認を行う可能性があります。

なお、従業員５人以上の法人などは、単独で申請することも可能です。

詳しくは、ホームページを御確認ください。

問合せ先：千葉県農業再生協議会
（事務局）県安全農業推進課（国事業）　TEL043-223-2888
　　県生産振興課　（県事業）　TEL043-223-2882

肥料高騰対策　千葉県　検索